ロータリーエンコーダ

目的

ロータリエンコーダは軸の回転方向および回転角度を検出するセンサである。ここでは2相の信号を出力するインクリメント型ロータリエンコーダを用い、マニュアルの読み方、使用方法を学ぶ。

実験概要

マニュアルには構造、使用方法、サンプルプログラムなどが掲載されている。これらは自分の開発言語や環境と異なる場合もあるが、使用上の注意事項等が含められており、プログラム作成時にはこれらに沿って作成するのがよい。 なお、ここでは、割り込みを用いない。

実験

実験1

インターフェースマニュアルを参照し、出力信号を調べよ。

- 1. 右回転するときは、A端子が先に H レベルになり、続いてB端子が H レベルになる。
- 2. 逆に左回転するときは、 B端子が先に H レベルになり、続いてA端子が H レベルになる。

実験2

データシートを参照して、端子配列を調べなさい。

左から Power +5v, Output A, Output B, For Switch, For Switch, Power Ov (上から見るとへこんでいる部分がある方が右側)

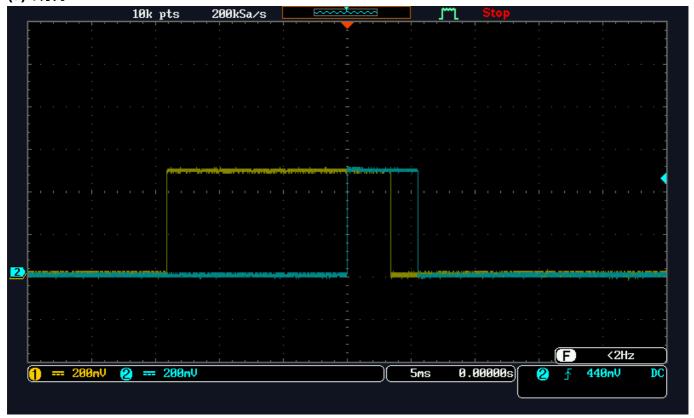
実験3

ロータリエンコーダに電源 5 V を接続する。ロータリエンコーダを回しながら、A 端子、B 端子の波形をオシロスコープで確認しなさい。

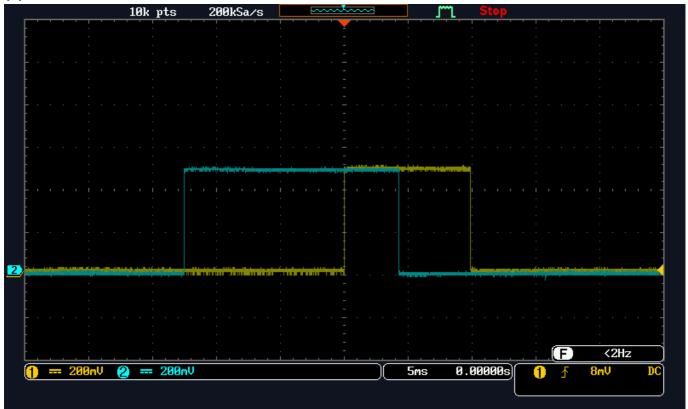
- 右回転: 図中の(a)
- 左回転: 図中の(b)
- Output A -> CH1
- Output B -> CH2

波形

(a)の方向



(b)の方向



- (a)が右回転で、Aが先に出ている
- (b)が左回転で、Bが先に出ている ので実験1は正しいといえる。

実験4

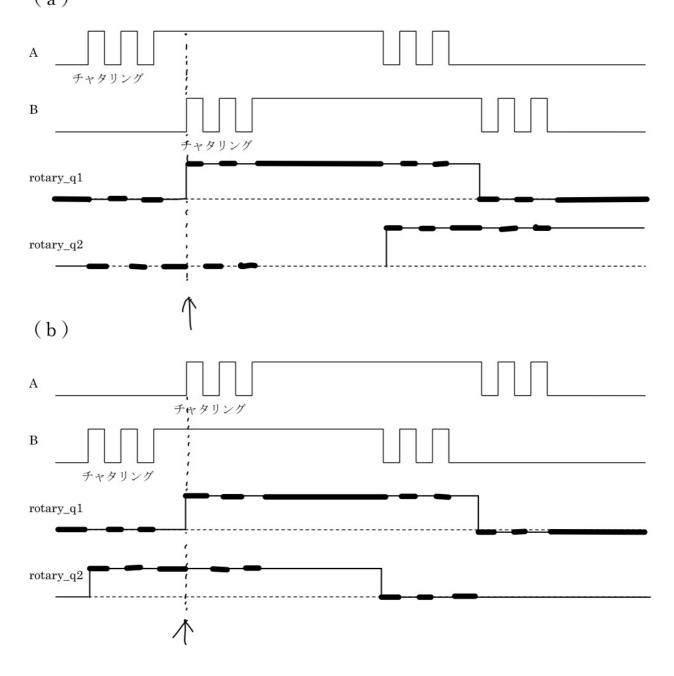
インターフェースマニュアルを参照し、回転方向の検出方法を読み取りなさい。

1. スイッチが操作されるとき、チャタリング(コンタクトバウンス)が発生する。チャタリングの除去法を読み取り、真理値表にしなさい。変化なしは「-」とせよ。

Α	В	rotary_q1	rotary_q2
L	L	L	-
L	Н	-	Н
Н	L	_	L
Н	Н	Н	-

- 1. rotary_q1 の立ち上がりは回転したことを示す。(その時点で)rotary_q2 がLなら右回転、Hなら左回転である。
- 2. タイミングチャートを完成せよ。

(検討)回転方向はどのタイミングで検出されるか、図示しなさい。 (a)



実験5

PD2, PD3 にロータリエンコーダの出力 A,B を接続する。実験 4. に基づいて、右回転なら LED を点灯、左回転なら LED を消灯するプログラムを作成せよ。

```
#include <asf.h>
int main(void)
{
```

```
uint8_t A = 0, B = 0; // A 端子, B 端子の値
   uint8_t rotary_q1 = 0, rotary_q2 = 0, prev_rotary_q1 = 0;
   DDRD &= ~(1 << DDD2) & ~(1 << DDD3); // 入出力ポート設定
   DDRB |= (1 << DDB5);
   PORTB &= ~(1 << PORTB5);
   while (1)
       A = (PIND & (1 << PIND2)) ? 1 : 0; // A 端子読み込み
       B = (PIND & (1 << PIND3)) ? 1 : 0; // B 端子読み込み
       // rotary_q1,rotary_q2 に変換(チャタリング除去)
       if(A == 0 \&\& B == 0){
           rotary_q1 = 0;
           rotary_q2 = rotary_q2;
       }else if(A == 0 && B == 1){
           rotary q1 = rotary q1;
           rotary q2 = 1;
       else if(A == 1 \&\& B == 0){
           rotary_q1 = rotary_q1;
           rotary_q2 = 0;
       else if(A == 1 \&\& B == 1){
           rotary_q1 = 1;
           rotary_q2 = rotary_q2;
       }
       if (rotary_q1 != prev_rotary_q1)
       { // rotary_q1 が変化して
           if (rotary_q1 == 1)
           { // 立ち上がったら
               if (rotary_q2 == 0)
                                        // 右回転なら
                   PORTB |= 1 << PORTB5; // 点灯
               else
                     // 左回転なら
                   PORTB &= ~(1 << PORTB5); // 消灯
           prev_rotary_q1 = rotary_q1; // 状態を更新
       }
   }
   return 0;
}
```

実験6

右に3クリック回したら LED を点灯せよ。途中、戻したらリスタートし、回し過ぎたら消灯するものとする。リスタートでは何をすべきか考えること。また、動作確認法についても考えること。

```
#include <asf.h>
int main(void)
{
    uint8_t A = 0, B = 0; // A 端子, B 端子の値
    uint8_t rotary_q1 = 0, rotary_q2 = 0, prev_rotary_q1 = 0;
    uint8_t counter = 0;
    DDRD &= ~(1 << DDD2) & ~(1 << DDD3); // 入出力ポート設定
    DDRB |= (1 << DDB5);
    PORTB &= ~(1 << PORTB5);
   while (1)
    {
       A = (PIND & (1 << PIND2)) ? 1 : 0; // A 端子読み込み
       B = (PIND & (1 << PIND3)) ? 1 : 0; // B 端子読み込み
       // rotary_q1,rotary_q2 に変換(チャタリング除去)
       if (A == 0 && B == 0)
        {
            rotary_q1 = 0;
            rotary_q2 = rotary_q2;
       else if (A == 0 \&\& B == 1)
            rotary_q1 = rotary_q1;
            rotary_q2 = 1;
        }
        else if (A == 1 \&\& B == 0)
            rotary_q1 = rotary_q1;
            rotary_q2 = 0;
        }
        else if (A == 1 \&\& B == 1)
            rotary_q1 = 1;
            rotary_q2 = rotary_q2;
       }
        if (rotary_q1 != prev_rotary_q1)
        { // rotary_q1 が変化して
            if (rotary_q1 == 1)
            { // 立ち上がったら
               if (rotary_q2 == 0)
                { // 右回転なら
                    counter++;
                    if (counter == 3)
                    {
                        PORTB |= 1 << PORTB5;
                    }
                    else if (counter > 3)
                        PORTB &= \sim(1 << PORTB5);
```

- リスタート時には何クリック回右に回したかを格納している変数のcounterを0に戻している。
- 動作確認方法としては、ゆっくりロータリーエンコーダを回すことで1クリックずつ回転させることができ、右回転し、3クリック回したときにLEDが点灯することを確認し、左回転するとカウンターが0に戻っているかを確認する

実験7

右に3クリック、そして左に2クリック回したら、LED を点灯せよ。途中、戻したらリスタートし、回し過ぎたら消灯するものとする。(switch 文でフェーズに分けよ。)

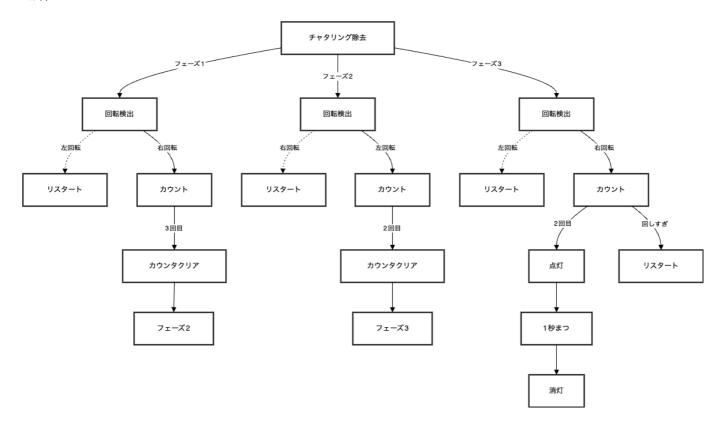
```
#include <asf.h>
int phase = 1;
int count = 0;
void start(void)
{
    count = 0;
    phase = 1;
}
int main(void)
{
    uint8_t A = 0, B = 0; // A 端子, B 端子の値
    uint8_t rotary_q1 = 0, rotary_q2 = 0, prev_rotary_q1 = 0;
    DDRD &= ~(1 << DDD2) & ~(1 << DDD3); // 入出力ポート設定
    DDRB |= (1 << DDB5);
    PORTB &= ~(1 << PORTB5);
    while (1)
       A = (PIND & (1 << PIND2)) ? 1 : 0; // A 端子読み込み
        B = (PIND & (1 << PIND3)) ? 1 : 0; // B 端子読み込み
       if (A == 0 && B == 0)
```

```
rotary_q1 = 0;
    rotary_q2 = rotary_q2;
}
else if (A == 0 && B == 1)
    rotary_q1 = rotary_q1;
    rotary_q2 = 1;
else if (A == 1 \&\& B == 0)
    rotary_q1 = rotary_q1;
    rotary_q2 = 0;
}
else if (A == 1 \&\& B == 1)
    rotary_q1 = 1;
    rotary_q2 = rotary_q2;
}
switch (phase)
    case 1:
    if (rotary_q1 != prev_rotary_q1)
    { // rotary_q1 が変化して
        if (rotary_q1 == 1)
        { // 立ち上がったら
            if (rotary_q2 == 0)
            { // 右回転なら
                count++;
                if (count == 3)
                {
                    count = 0;
                    phase = 2;
                }
            }
            else
            {
                start();
            }
        }
        prev_rotary_q1 = rotary_q1; // 状態を更新
    }
    break;
    case 2:
    if (rotary_q1 != prev_rotary_q1)
    { // rotary_q1 が変化して
        if (rotary_q1 == 1)
        { // 立ち上がったら
            if (rotary_q2 == 0)
            { // 右回転なら
                start();
            }
            else
```

実験8

右に3クリック、左に2クリック、さらに右に2クリック回したら、LED を1秒間点灯せよ。途中、間違えたらリスタートするものとする。なお、ディレイ関数を利用してよい。動作フローを書き、プログラムによって確かめよ。

動作フロー



```
#include <asf.h>
#define F CPU 2000000UL
#include <util/delay.h>
int phase = 1;
int count = 0;
void start(void)
{
    count = 0;
    phase = 1;
}
int main(void)
{
    uint8_t A = 0, B = 0; // A 端子, B 端子の値
    uint8_t rotary_q1 = 0, rotary_q2 = 0, prev_rotary_q1 = 0;
    DDRD &= ~(1 << DDD2) & ~(1 << DDD3); // 入出力ポート設定
    DDRB |= (1 << DDB5);
    PORTB &= ~(1 << PORTB5);
    while (1)
        A = (PIND & (1 << PIND2)) ? 1 : 0; // A 端子読み込み
        B = (PIND & (1 << PIND3)) ? 1 : 0; // B 端子読み込み
        if (A == 0 && B == 0)
        {
            rotary_q1 = 0;
            rotary_q2 = rotary_q2;
        }
        else if (A == 0 \&\& B == 1)
            rotary_q1 = rotary_q1;
            rotary_q2 = 1;
        }
        else if (A == 1 \&\& B == 0)
            rotary_q1 = rotary_q1;
            rotary_q2 = 0;
        else if (A == 1 \&\& B == 1)
            rotary_q1 = 1;
            rotary_q2 = rotary_q2;
        }
        switch (phase)
```

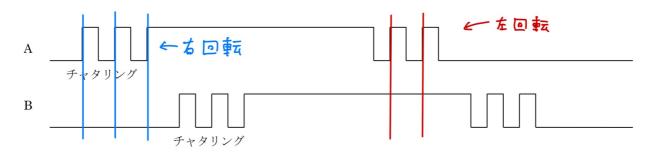
```
case 1:
if (rotary_q1 != prev_rotary_q1)
{ // rotary_q1 が変化して
   if (rotary_q1 == 1)
   { // 立ち上がったら
       if (rotary_q2 == 0)
       { // 右回転なら
           count++;
           if (count == 3)
           {
               count = 0;
               phase = 2;
           }
       }
       else
           start();
       }
   }
   prev_rotary_q1 = rotary_q1; // 状態を更新
}
break;
case 2:
if (rotary_q1 != prev_rotary_q1)
{ // rotary_q1 が変化して
   if (rotary_q1 == 1)
    { // 立ち上がったら
       if (rotary_q2 == 0)
       { // 右回転なら
           start();
       }
       else
       { // 左回転なら
           count++;
           if (count == 2)
           {
               phase = 3;
               count = 0;
           }
       }
   }
   prev_rotary_q1 = rotary_q1; // 状態を更新
}
break;
case 3:
if (rotary_q1 != prev_rotary_q1)
{ // rotary_q1 が変化して
   if (rotary_q1 == 1)
    { // 立ち上がったら
       if (rotary_q2 == 0)
       { // 右回転なら
           count++;
           if (count == 2)
```

```
PORTB |= 1 << PORTB5; // 点灯
                            _delay_ms(1000);
                            PORTB &= ~(1 << PORTB5); // 消灯
                        }
                        else if (count > 2)
                        {
                            start();
                        }
                    }
                    else
                    { // 左回転なら
                        start();
                prev_rotary_q1 = rotary_q1; // 状態を更新
            }
       }
   }
   return 0;
}
```

考察

下記項目について調べよ。

1. 実験 1 から単純に A 端子の立ち上がりで B 端子が L なら右回転、H なら左回転とすることがある。このとき、次のようにチャタリングが発生した場合、どのような動作となるか。(ヒント、回転と検出されるタイミングはどこかを図示せよ)



そのような処理を行なってしまうと、何回も判定されてしまう。

- 2. チャタリングの除去法を調べよ
- ローパスフィルタ
 - スイッチの信号線に抵抗とコンデンサを組み合わせたローパスフィルタを挿入することで、チャタリングによるノイズを除去します。コンデンサが電圧の変化を緩やかにし、スイッチのON/OFFの切り替わりを滑らかにします。
- シュミットトリガー
 - o シュミットトリガー回路は、入力電圧が一定の閾値を超えた場合にのみ出力を切り替えるため、チャタリングの影響を受けにくくすることができます。
- RSフリップフロップ
 - o RSフリップフロップは、スイッチのON/OFF状態を記憶し、チャタリングによる誤動作を防ぎます。

• デバウンス処理

• スイッチが押された直後の短い時間(例:10ms~20ms)は、入力の変化を無視し、安定した状態になるまで待つことでチャタリングの影響を抑えることができます。

• 状態遷移の管理

○ 今回のように、スイッチの状態を明確に定義し、状態遷移のルールを設けることで、チャタリングによる予期せぬ状態遷移を防ぎます。